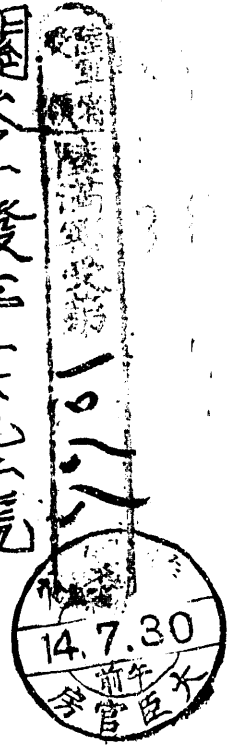


0600

五

課内回覧
西村 杉本 杉下 大賀

關參一發第一六九二號



「モンハン」事件ヨリ得タル航空部隊
編制裝備上ノ意見ノ件

昭和七年七月廿五日

關東軍參謀長 谷廉介

陸軍次官 山脇正隆殿

一 戦闘爆撃兩兵力ノ比率ニ關シテハ對蘇作戰
ノ推移ヲ仔細ニ檢討シ更ニ改變ヲ加フルノ
要アリ

(説明) 今次「モンハン」事件ニ於ケル空中
戦闘ニ於テハ我カ飛行隊ハ迎撃ヲ主トシ且



進攻作戰ニ在リテモ戦爆協同攻撃ヲ實施シ
 得ル距離内ニアル敵根據飛行場（國境ヲ距
 ル五十料乃至百料）ヲ攻撃シタル關係上航
 空作戰ハ戦闘隊之ヲ獨占シタルノ感アリ
 而シテ將來ノ對蘇航空作戰ヲ考察スルニ此
 種航空作戰ヲ實施スル機會相當多キニ鑑ミ
 戦闘隊ノ兵力比率ハ若干増強スルノ要アリ
 然レトモ戦爆協同攻撃ヲ許ササル國境遠ク
 位置スル敵航空根據地（國境ヲ距ル百料以

上)ニ對スル爆撃機ノ積極的進攻作戰及政
略爆撃ノ必要度相當大ナルト高々度ニ活躍
シ或ハ夜間行動スル敵爆撃機ノ迎撃ニ依ル捕
捉至難ナル事實トニ鑑ミ極端ニ戰鬪隊ノ兵
力ヲ增強セントスルハ一考ヲ要ス

ニ新機種特ニ新戰鬪機及新司偵機ノ完成ヲ促
進スルヲ要ス

(説明)今次空中戦ニ於ケル我力戰鬪機ノ
赫々タル戰績ハ部隊ノ志氣訓練等各種素因

ニ因ルコト勿論ナリト雖敵ノ「イー十五」イー
 十六ニ比シ我カ九七式戦闘機ノ性能カ優越
 シアルニ因ルハ各戦隊長ノ確認スル所ナリ
 然レトモ最近出現セル敵新型戦闘機竝「エス
 バ」爆撃機等速力相當大ナル敵機ニ對シテ
 ハ九七式戦闘機ヲ以テシテハ之カ捕捉困難
 ニシテ未タ十分ナル戦蹟ヲ收メ得サルハ頗
 ル遺憾トスル所ナリ
 又我カ司偵機ノ敵根據飛行場ニ對スル偵察

ハ最近常ニ敵新型戦闘機ヨリ大ナル脅威ヲ
 受ケツツアリテ司偵機ノ速力向上ヲ希望ス
 ルコト切ナルモノアリ

之ヲ要スルニ空中戦ノ勝敗ハ器材ノ良否ニ
 關スルコト極メテ大ナルモノアルニ鑑ミ現
 機種ニ満足スルコトナク更ニ躍進ヲ企圖シ
 常ニ敵ニ對シ器材ノ優位ヲ保有スルハ緊要
 故クヘカラサル事項トス

ニ戦闘隊ノ戦力ヲ保有スル爲現状勢ニ於テハ

通称
科
空

若キ下士官操縦者ヲ多數養成スルコト緊要ナリ

(説明) 今次空中戦ノ實蹟ヲ觀察スルニ空中戦闘ハ一騎打的單機格闘戦ノ連續ニシテ空中戦開始直前ノ接敵攻撃下令以外特別ニ戰術的頭腦ヲ要セス寧ロ高々度ニ於ケル單機格闘戦ノ連續ニ耐スル体力氣力ヲ絶對必要トシ之カ爲ニハ元氣發^刺タル若キ操縦者ヲ最適トスルモ現状勢ハ必スシモ將校ヲ充

當シ得サルヲ以テ一部少數ノ幹部ヲ除クノ
 外若キ下士官操縦者ヲ以テ満足セサルヘカ
 ラス而シテ之等若キ下士官操縦者力逐次年
 老ヒテ老練操縦者タルニ至ラハ之ヲ他分科
 飛行隊ニ轉用シ戦闘隊ハ常ニ多數ノ若キ發
 刺タル下士官操縦者ハ但飛行時間四百時間
 以上ニテ保有スルノ著意ヲ必要トス

四 全飛行機ニ互リ高々度飛行ヲ實施シ得ル如
 ク速ニ酸素吸入器並ニ高々度爆撃特種照準

具及高度偵察用具ヲ速ニ研究裝備スルヲ要ス

(説明) (1) 敵爆撃機ハ彙々七、〇〇〇米以上ニ行動スルコトアルヲ以テ之ニ對應スル爲我カ戦闘機ハ平時ヨリ酸素吸入器ヲ具備シ置クノ要アリ

過日鹵獲セル敵戦闘機ハ之カ裝備我ニ比シ遙ニ完備シアリ

(2) 司偵機ノ敵航空根據地偵察ハ敵戦闘機ノ

跳梁シアル關係上高々度偵察ヲ必要トシ之
 カ爲ニハ酸素吸入器ハ勿論高々度ヨリスル
 特種偵察眼鏡竝ニ十糧（若クハ二十糧）廣
 角度寫真機ノ裝備ヲ絕對要件トス
 (3) 敵航空根據地ニ對スル進攻作戰ニ於テハ
 爆撃機ニアリテモ企圖秘匿上高々度飛行ヲ
 絕對必要トシ之カ爲ニハ酸素吸入器竝ニ高
 々度特種爆撃照準具ヲ速ニ裝備スルヲ要ス
 五、敵ノ中大型機ニ對スル攻撃ノ爲使用銃彈竝

ニ機關砲ニ關シ速ニ研究スルヲ要ス
 (説明)今次空中戰ノ實蹟ヲ觀察スルニ敵
 戰鬪機ニ對シテハ赫々タル戰蹟ヲ收メツ
 ツアルモ敵ノ「エスベ」等中型機以上ニ對
 シテハ假令命中彈ヲ得ルモ火災ヲ起サシ
 ムル公算極メテ少ク之カ爲目下我が戰鬪
 隊ハ徹甲實包對燒夷實包ノ比率ヲ二對一
 トシテ使用シアルノミナラス試製炸裂銃
 彈ノ交付ヲ中央ニ要求シアル狀況ナリ本

問題解決ノ爲ニハ速ニ二十粒以上ノ機關砲
 裝備ニ關シ研究ヲ進ムルノ要アリ

大
 可
 12
 早